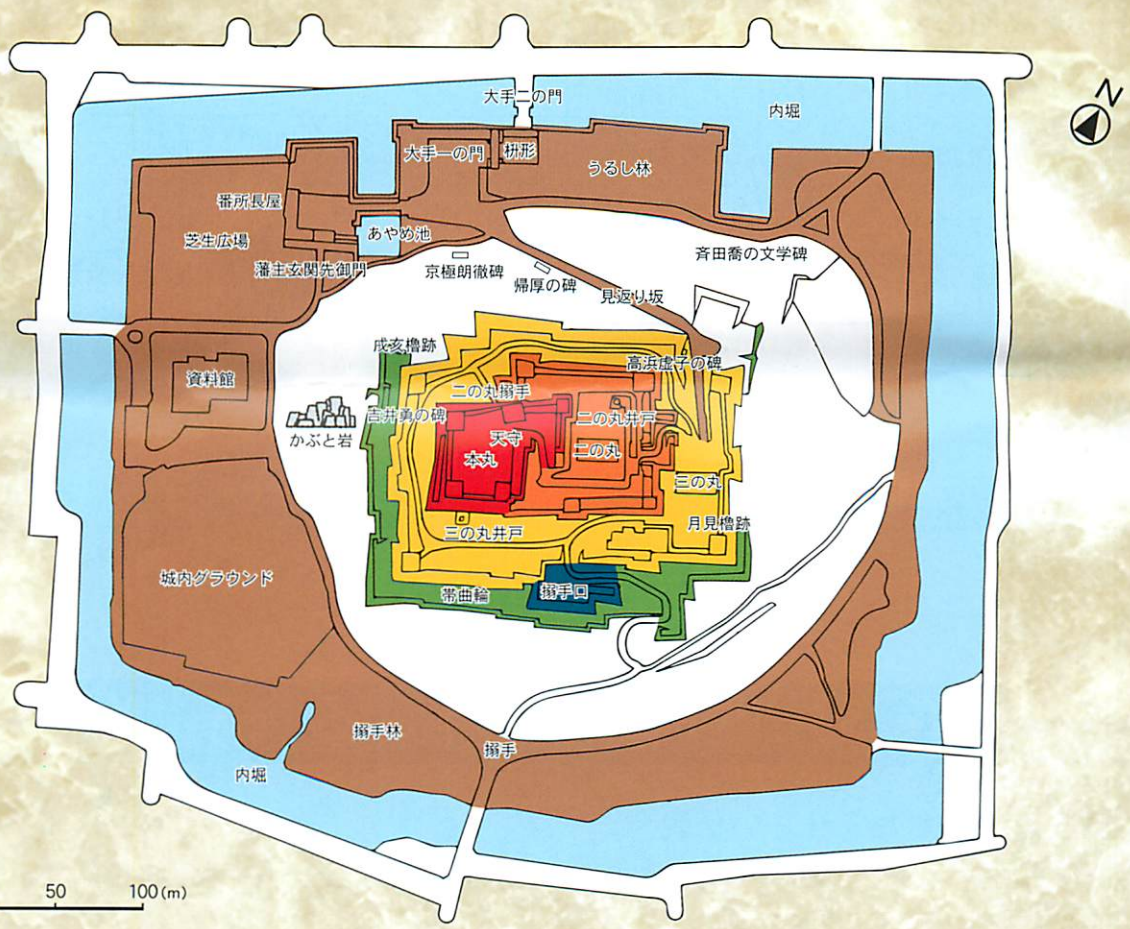
丸亀城の見所

史跡丸亀城跡

（昭和28年国指定・史跡）

標高66mの亀山に築かれた平山城。別名亀山城とも呼ばれています。本丸・二の丸・三の丸・帯曲輪・山下曲輪があり、東西約540m・南北約460mの内堀内204,756㎡が史跡範囲です。「石の城」と形容されるその名のとおり、丸亀城は石垣の名城として全国的に有名です。



帯曲輪

三の丸下段を帯状に巡る曲輪です。

丸亀城の面白い石垣

●石垣の継ぎ足し

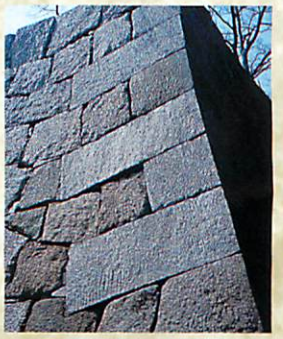
本丸、三の丸、帯曲輪の石垣にみられます。

●角石に線引き

角石をノミで線引きしています。美しい隅角ラインを作り忘れたのでしょうか。

搦手口

三の丸南側の搦手口は、山崎時代の大手であり、石垣を巧みに配し、城内でも一番堅固に作られた場所です。また、門跡の石垣は、加工された大きな石材を用いて、みごとに築かれています。



城（藩）主替年表

領主・藩主	在職年月日	在職年数	備考
生駒雅楽頭親正（いこまうたのかみちかまさ）	天正15.8～慶長 5.9 (1587)　(1600)	14	讃岐国の領主、高松城を居城とする。 丸亀城、築城開始。
同　讃岐守一正（さぬきのかみかずまさ）	慶長 6.5～慶長15.3 (1601)　(1610)	9	高松城に移り、丸亀城に城代を置く。
同　讃岐守正俊（さぬきのかみまさとし）	慶長15.4～元和 7.6 (1610)　(1621)	12	一国一城令、丸亀城廃城。
同　壱岐守高俊（いきのかみたかとし）	元和 7.7～寛永17.7 (1621)　(1640)	20	お家騒動により所領没収、出羽国矢島転封。
山崎甲斐守家治（やまざきかいのかみいえはる）	寛永18.9～慶安 1.3 (1641)　(1648)	7	讃岐国二分。天草富岡から西讃岐へ転封。 生駒氏城跡地に丸亀城再築。
同　志摩守俊家（しまのかみとしいえ）	慶安 1.6～慶安4.10 (1648)　(1651)	4	外堀の修復。領内の治水事業。 満濃池のユルの修復工事。
同　虎之助治頼（とらのすけはるより）	慶安 5.2～明暦 3.3 (1652)　(1657)	6	8歳で没、嫡子なく絶家。 叔父豊治、備中成羽へ転封。
京極刑部少輔高和（きょうごくぎょうぶしょうゆうたかかず）	明暦 4.2～寛文 2.9 (1658)　(1662)	5	播州龍野から転封。 天守完成。
同　備中守高豊（びっちゅうのかみたかとよ）	寛文2.12～元禄 7.5 (1662)　(1694)	32	大手門を現在地に移す。仁清の愛好家。 中津別館（現中津万象園）を造る。
同　若狭守高或（わかさのかみたかもち）	元禄 7.6～享保 9.6 (1694)　(1724)	31	庶兄高通に多度津1万石を分ける。
同　佐渡守高矩（さどのかみたかのり）	享保 9.8～宝暦13.9 (1724)　(1763)	40	将軍吉宗の要請により家宝を上覧する。 塩屋別院を建立。
同　能登守高中（のとのかみたかなか）	宝暦13.10～文化8.1 (1763)　(1811)	48	福島湛甫を築造。藩校正明館を創立。 中津御茶所の整備。
同　長門守高朗（ながとのかみたかあきら）	文化 8.3～嘉永 3.7 (1811)　(1850)	40 隠居	名君。うちわ作りの奨励。新堀湛甫を築造。 『西讃府志』編纂。
同　佐渡守朗徹（さどのかみあきゆき）	嘉永 3.7～明治 2.6 (1850)　(1869)	20	版籍奉還。廃藩置県後の県知事。 『西讃府志』完成。

築城にまつわる伝説

■石垣にかかわる悲しい伝説

羽坂重三郎は、常に仕事をするときは裸になって一生懸命働くことから「裸重三」と呼ばれ、丸亀城の石垣を完成させた功労者です。

殿様は「さすがは重三の築いた石垣だけあって完璧だ。これでは空飛ぶ鳥以外にこの城壁を乗り越えるものはあるまい。」とご満悦でした。

ところが、重三郎は「私に尺余りの鉄棒を下されば、容易に登ることができます。」と言って、鉄棒を使いすいすいと城壁を登ってしまいました。

殿様は、重三郎を生かしておけば来敵に通じた場合、恐ろしいことになると考え、城内の井戸の底を重三郎に探らせて、その隙に石を投じて殺してしまいました。その伝説の井戸が二の丸井戸です。

■丸亀城人柱伝説

シトシトと雨の降る夕暮れ、一人の豆腐売りが作事場付近で豆腐を売りつつ通行していました。これを待ち構えた人夫たちは、豆腐売りを捕らえ、用意した穴に投げ込み、お城の人柱として、生き埋めにしてしまったのです。以来雨の降る夜は築城の犠牲となった豆腐売りの怨霊がトーフトーフと泣き続けるのだと言われています。

『丸亀城ものがたり』永田照雄より